

二〇二五年度 トキワ松学園中学校入学試験

適性検査型 適性検査ⅠA 問題用紙

受験番号

開始と同時に受験番号を
書き入れなさい。

次の**文章A**・**文章B**を読んで、あとの問題に答えなさい。

(＊印の付いている言葉には、文章のあとに〈言葉の説明〉があります。)

文章A

人にはそれぞれのリズムというものがあります。私のような喋り好きの人間にとつては長い沈黙に感じる時間でも、相手にしてみれば、心地よい「間」となっていることがあるのです。相手が自分に対して敵意を抱いているというならいざ知らず、とりあえず友好的な関係であると双方了解している以上、ときの流れに身を任せ、特段に話すことが思いつかない場合は、しばらく外の景色でも楽しんでいればいいのです。

こんなことを言うと、①「話す力」の本と称して身も蓋もないように思われるかもしれませんが、黙っていても問題のないときがあります。

相手も、「どんな話をしようかなあ」と探っている最中かもしれません。話題を探るのに時間がかかる人もいます。あるいは少し黙っていたいという気分かもしれません。眠くて眠くてしかたがない場合もあるでしょう。必ずしも私と＊長友さんのようにポンポン言葉が途切れることなくスピーディに行ったり来たりしなければいけない、なんてことはないのです。自分のリズムを押しつけるより、相手のリズムを察するというのも、会話のうちと考えてみてください。積極的に社交しなければいけない

という義務感を放棄してもいいときがあるはずです。(中略)
考えてみると、「話す力」と「聞く力」って、どこが違うの
でしょうね。

互いの会話を広げるためには、相手に質問しなければなら
ない。質問を考えなければならぬ。となると、それは「聞く
力」ですよ。一方、相手と話をするとき、必ずしも質問のか
たちを取っていなくてもいいのが、「話す力」ということになるで
しょうか。質問をしないということは、自分の話を披露する必
要が出てきます。でも、自分には別に話したい話題がない。と
りあえず今のところは。そういうときはどうするか。

共感する。

つまり、相手の話に興味を持ち、相手の言葉に驚いたり笑つ
たりノッてみたり、ときにはちよつと反論したり突っこんでみ
たりと、その都度、自在に反応してみる。反応することこそ、
次の言葉に繋がるきっかけとなるでしょう。

(阿川 佐和子「話す力」による)

〈言葉の説明〉

長友さん…長友啓典(一九三九～二〇一七)。グラフィックデ
ザイナー。著書の表紙デザインを担当したことが
きっかけで、著者と仲良くなった。

文章B

②コミュニケーション力を見極める際に基本となるのは、お互いの会話を絡からませることができているかどうか、という点である。一人で話している間はまともな話をするのできる人の中にも、相手の発言と自分の発言とを絡めて話すことのできない人は意外に多い。こちらの話をまったく聞いていないかのような話の持って行き方をする人がいる。そのような人の特徴とくちょうとしては、次のようなポイントが挙げられる。

一つ目は、質問をあまりしない。相手のことに、あまり関心がないのだ。たとえ質問をしたとしても、それは見せかけだけで、すぐに自分の話をし始める。

二つ目は、人の話を途中で遮さへぎる。自分の話は延々えんえんと時間をとつてするくせに、人が話し始めると途中で遮さへぎってしまう。これは、ボールゲームで言うと、*ボール・ポゼッション(保有)の意識が低いということだ。自分がどれだけボール(話す時間)を持っているのかを意識していないと、チームメイト(話し相手)にボールをまわさなくなる。子ども同士の遊びでも、球を友達にまわさずに、一人で保有している子どもがいたら周りから注意されるだろう。話をしているということは、ちょうどボールを持っているのと同じ状態だ。ボールゲームは皆みなで楽しむものだ。会話も球を意識的にまわさなくてはゲームにならない。

説教のモードにすぐに入りがちな人は、相手の話を最後まで聞ききる習慣が少ない。すべてを説明しきる前に、初めの言葉で怒おこりだしてしまう。ちよつとした言葉づかいが*逆鱗げきりんに触れ、話の本筋ほんすじに入る前に説教が始まってしまう。これではコミュニケーションがとれていないと言える。

三つ目は、人が使った言葉を上手うまく使いこなすことがないということだ。会話をしていると、それぞれが使うボキャブラリーというものがある。相手が慣れ親しんでいる言葉をこちらがその場で上手に使いこなすことができると、コミュニケーションは格段に深まるのだが、これを意識して行っている人は少ない。反対に、自分の使うボキャブラリーが上手に相手の話す文脈に組み込こまれると、会話が絡み合っているなど感じるものである。

会話の素材は、言葉だ。お互いのボキャブラリーが混ざり合うことで、味わいのある料理ができあがる。肉じゃがをつくるのに、肉とじゃがいもをそれぞれ別に料理し別の器うつわにより分けているようならば、それは肉じゃがとは呼ばない。会話でも、素材(ボキャブラリー)が混ぜ合わされ、一つの文脈に溶とけ合わされるからこそ、会話と呼べるのだ。

(齋藤孝「コミュニケーション力」による)

〈言葉の説明〉

ボール・ポゼッション…サッカー用語で、ボールを所有・

所持している状態のこと。

逆鱗に触れる…目上の人をはげしくおこらせる。

〔問題1〕

文章Aに^①「話す力」とありますが、「話す力」とは

どのようなことですか。**文章A**の内容をふまえて、

四十五字以上六十字以内で答えましょう。

（書き方のきまり）

○、や。や」などはそれぞれ一ますに書きます。

○一ますめから書き始めます。

○文章を直すときは、消しゴムでいいねいに消してから書き直します。

〔問題2〕

文章Bに^②「コミュニケーション力」とありますが、

「コミュニケーション力のある人」とはどのような人の

ことだと考えられますか。**文章B**の内容をふまえて、

八十字以上九十字以内で答えましょう。

（書き方のきまり）

○、や。や」などはそれぞれ一ますに書きます。

○一ますめから書き始めます。

○文章を直すときは、消しゴムでいいねいに消してから書き直します。

〔問題3〕二つの文章を読んで、あなたは今まで誰かと話すと

きにどのようなことに注意してきましたか。また、今後の学校生活において、より良い人間関係を作るためにどのような工夫くふうをしていきたいと考えますか。それぞれの文章の内容をふまえて四百字以上五百字以内で自分の考えをまとめましょう。第一段落には、「話すときに自分が注意してきたこと」について書き、第二段落より後には、「より良い人間関係を作るために工夫したいこと」について書きましょう。

（書き方のきまり）

- 題名は書きません。
- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。会話などを入れる場合は、行をかえません。
- 、や。や」などはそれぞれ一ますに書きます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じますめに書きます（ますめの下に書いてもかまいません）。
- 。と」が続く場合には、同じますめに書いてもかまいません。この場合、。」で一字と数えます。

○ 最後の段落の残りのますは、字数として数えません。

○ 文章を直すときは、消しゴムでいいねいに消してから書き直します。